

日本林政ジャーナリストの会令和7年度新春特別研究会

「なぜ日本の私たちが海外の森林問題に取り組まなければならないのか」

公益財団法人地球環境戦略研究機構（IGES）研究員 山ノ下麻木乃氏

日時：令和8年1月28日（水） 15:00～17:00

場所：林友ビル6F 中会議室 東京都文京区後楽1-7-12

定員：25名（先着順）

山ノ下麻木乃氏は、IGESの研究員として、途上国地域住民に貢献する気候変動や生物多様性保全等の国際的な合意や取組の実現に関心を持ち、調査研究や国際交渉支援などを行って来ました。経済的・環境的圧力に直面する途上国地域住民の複雑な現実を解き明かし、画一的な支援アプローチの限界を指摘するとともに、ボトムアップでシステム変革を促す人間中心のガバナンスモデルの構築を目指しています。今回の新春特別研究会では、COP30（ベレン）の動きを始めとする気候変動問題、生物多様性の保全問題をベースに、違法伐採対策を含めた農林産物の責任ある調達（貿易）などについてお話を伺います。

参加希望の方は、氏名、所属及び連絡先をご記入のうえで、令和8年1月10日（金）までに日本林政ジャーナリストの会幹事・事務局長の上河潔（k.kamikawa@live.jp）までお申し込みください。



山ノ下麻木乃（やまのしたまきの）： 公益財団法人地球環境戦略研究機構（IGES）研究員
サステナビリティ・ガバナンスを専門とし、特に途上国の森林保全や持続可能な農業の分野で、地域コミュニティのケイパビリティ（人々が価値を置く生き方を選択できる能力）を高めるための研究に20年以上従事。アジア（ベトナム）の農山村において、小規模農家や地域住民を対象とした参加型のフル度調査を実施。最近では、責任ある調達やサステナブルなサプライチェーン構築などの民間企業の自主的な取り組みに注目し、ベトナムの小規模農家が関与する木材・コーヒー生産の調査を行っている。早稲田大学人間科学研究科博士号取得。（社）海外植林センター、国際NGOバードライフを経て2011年よりIGESに研究員として勤務。